

焼山地区活性化基本計画

2014年5月

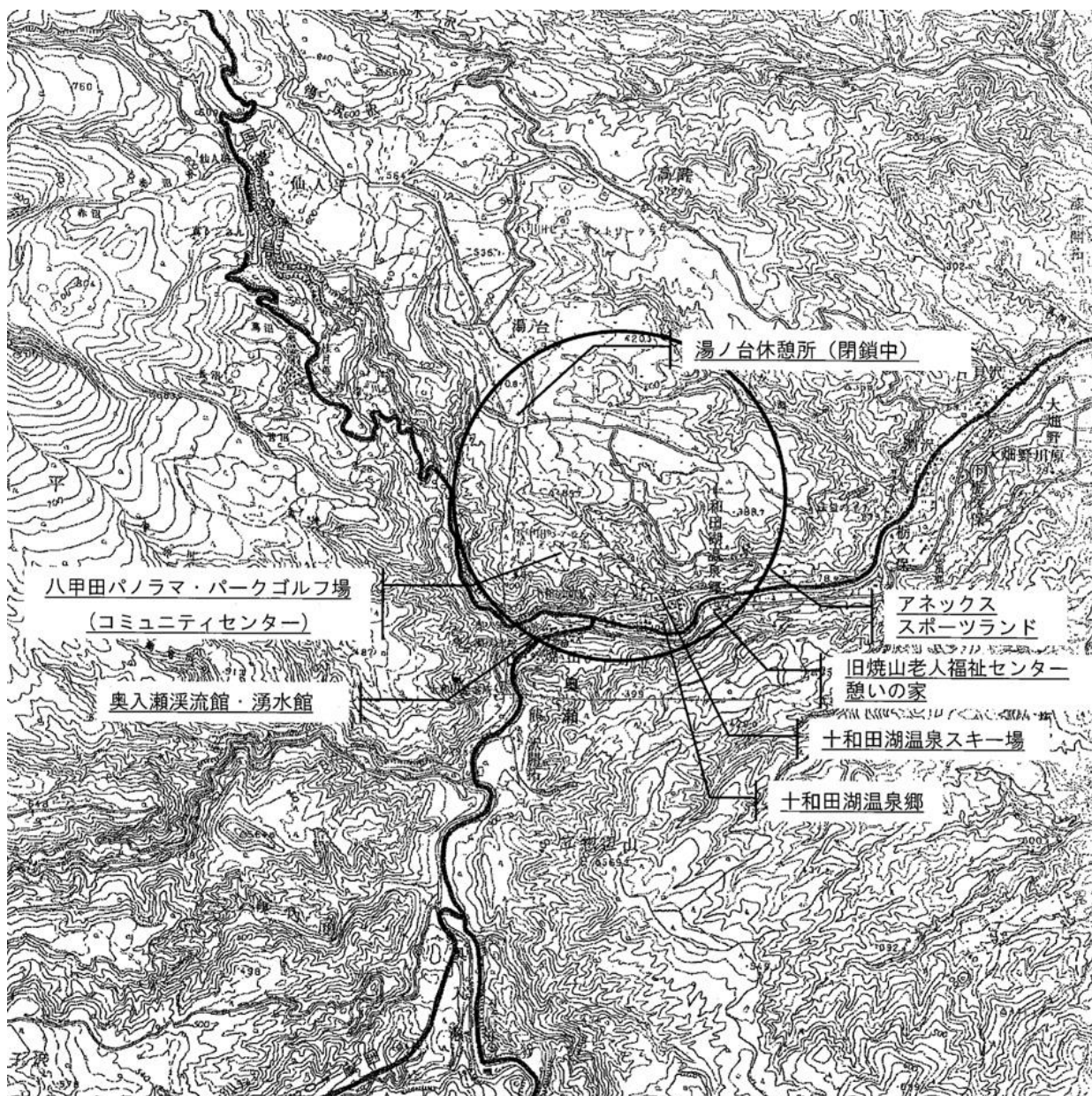
青森県 十和田市

計画の目的

十和田湖・奥入瀬溪流の玄関口に位置する焼山地区は、1963年の開湯以来温泉郷として知られ、また冬季のレクリエーション施設として十和田湖温泉スキー場などがあるとともに、美しい景観や観光事業の展開など、潜在性のある観光資源を有する地域である。さらには、北は青森市・八甲田方面、西は十和田湖・秋田方面、東は十和田市街地、県南地方へ通じる交通の要衝である。当該地区の魅力向上が、他の地域へのさらなる誘客に発展するものと位置付け、もって観光産業の振興、雇用の場の確保を図ることを目的とし、「花」と「温泉」と「アート」を柱に取り入れた基本計画を策定する。

計画の対象区域

本計画における対象区域は、下図のとおり、十和田市焼山地区(十和田湖温泉スキー場、十和田湖温泉郷、奥入瀬溪流館・湧水館、第二温泉郷、湯ノ台区域)とする。なお、奥入瀬溪流に関しては、本計画には含まないものとする。



焼山地区の概況

1963年に開湯した十和田湖温泉郷は、十和田湖の北東に位置し、奥入瀬溪流や十和田湖観光の拠点として発展した地域である。後年、十和田湖温泉スキー場も整備され、観光拠点、余暇活動の拠点として、1980年代後半まで活気ある街として繁栄したが、十和田湖、奥入瀬溪流への観光客数の減少とともに、観光業の衰退、人口減少、高齢化など、多くの課題を抱える地域となっている。

上位計画との関連

十和田市は、2007年に第1次十和田市総合計画として、「感動・創造推進プラン 十和田」を掲げており、「市民と行政の連携と協働のもと、まちづくりの感動を分かち合い、まちの発展を支える創造性を高めることによって、いきいきとした十和田市を実現(抜粋)」と規定されている。また、2006年には「十和田市観光基本計画」が、2010年には、「十和田市過疎地域自立促進計画」が策定されており、本計画においても、これら、市が既に策定した計画を踏まえ、計画を行う必要がある。

人口動向

当該地区を含む旧十和田湖町は、1980年代後半以降の人口減少が激しく、焼山地区にあっては、現在の人口は200人前後であり、高齢化も伴う、典型的な過疎の状況にある。過去3年間の当該地区の人口動向は、2011年196人、2012年200人(前年比2%増)、2013年182人(前年比9%減)となっている。満65歳以上の高齢者の割合がおおよそ40%と常に高い割合で推移しており、十和田市全体の高齢者割合24.6%(平成23年)と比較しても、非常に高い割合であることが分かる。一方で満20歳以上65歳未満の成人は、おおよそ50%の割合で推移している。

旧十和田湖町人口動向 (単位:人)

年	旧十和田湖町人口
1980年(昭和55年)	7,815
1985年(昭和60年)	7,391
1990年(平成2年)	6,921
1995年(平成7年)	6,687
2000年(平成12年)	6,243
2005年(平成17年)	5,735
2010年(平成22年)	5,073

焼山地区人口動向 (単位:人)

年	20歳未満	20~65未満	65以上	合計
2011年(平成23年)	22	101	73	196
2012年(平成24年)	22	99	79	200
2013年(平成25年)	19	85	78	182

* 単位(人) / いずれも3月31日現在 / 資料: 住民基本台帳

焼山地区活性化基本計画

経済状況

当該地区の主な産業は、温泉・宿泊業、商業、飲食業、ネイチャーガイドツアーなどの自然に関わる観光業、スキー場やパークゴルフ場の運営など、観光および余暇活動に関わるものが大多数を占める。一方で、十和田湖への観光客減少など地域特有の現象に加え、団体旅行の現象による宿泊業、飲食業の衰退、スキー客の減少など、1990年代前半以降、全国的に顕著となっている現象により、廃業、移転等が激しく、地域に十分な雇用がない状況にある。以上のことにより、当該地区では経済活動が停滞しており、人口流出が著しく、また流入人口は僅かである。

地域の経済的な立地特性

当該地区は、十和田八幡平国立公園に隣接し、奥入瀬溪流への玄関口である。当該地区は、国立公園に隣接する地区でありながら、国立公園の外側に位置するため、新たな造成、建築等が自由に行える地区である。これは、豊かな自然にすぐにアクセスできる利便性の良い位置にあり、バスターミナルや駐車場などの交通の要所、観光案内や宿泊、休憩、飲食や商業、余暇活動など、十和田湖や奥入瀬溪流への観光客が求める街としての機能を有することのできる唯一無二の地区であるとも言える。また、豊かな温泉源も有しており、温泉宿や足湯、日帰り温泉など、温泉を活用した産業を促進できる地区でもある。

減少傾向にあるものの、十和田湖・奥入瀬溪流への年間観光客数は約108万人（H24年青森県観光入込客統計）を誇るため、当該地区の立地特性を活かし、これらの観光客の当該地区への流入を目標として、経済振興、地域活性化を行うことも視野に入れるべきである。

自然環境に関わる動向

当該地域は、十和田八幡平国立公園内に位置する十和田湖、奥入瀬溪流など、自然豊かな景勝地に隣接しており、以前にも増して、世界的にも希少な地域の自然に対する評価と関心が集まっている。十和田市だけでなく、国、青森県、民間事業者等含め、希少な自然に対する環境保全・啓発・活用の活動が高まってきており、青森県、十和田市、民間事業者などによる奥入瀬溪流エコツアーリズムプロジェクトや、ユネスコ・エコパーク登録の可能性を探る動きなどが活発化してきている。また、ネイチャーガイドツアー、ランプリングツアー、奥入瀬溪流の希少な苔を対象としたツアーやアクティビティなど、民間事業者による新たな事業も盛んであり、産業の空洞化が続く当該地区内において、新しい魅力的な産業が創出され得る分野となっている。

交通

十和田湖温泉郷および十和田湖温泉スキー場は、国道102号と国道103号の交差点付近に位置し、奥入瀬溪流への玄関口にあたる。近隣に鉄道駅は存在せず、青森・八戸と当該地区を結ぶJRバス東北による路線バスと、十和田市中心市街地と当該地区を結ぶ十和田観光電鉄による路線バスが運行されているものの、運行本数が少なく、当該地域への交通は、自家用車、観光バスなどが主流である。

一方で、奥入瀬溪流沿いの国道102号は、奥入瀬溪流の繁忙期には、観光客の自家用車が渋滞し、環境保全の面でも悪影響が懸念されるため、青楓山と十和田湖畔子ノ口を結ぶ一般国道103号奥入瀬(青楓山)バイパスの建設が国土交通省により計画されている。この計画が実現された際には、奥入瀬溪流沿い国道102号の車輛乗り入れ規制が行われる可能性があり、十和田湖温泉郷をはじめとする当該地区が、交通の要所となる可能性が高い。

気象

焼山地区は、十和田市中心市街地と比較し、降水量(降雪量)が著しく多く、日照時間も短い。山間部であるため、一年を通して、気象の変化が激しく、雨、霧、風などを伴う天候の急変、冬期には50cm～1mの積雪などがあるやや厳しい気象条件である。

休屋観測所データ(気象庁)

年	降水量(mm)		気温(℃)					風向・風速(m/s)			日照
	合計	日最大	平均 日平均	最高 日最高	最低 日最低	最高	最低	平均 風速	最大風速 風速	風向	時間 (h)
2009年	1850	77	8	12.1	4.1	28.9	-14.1	2.2	12.4	西	1372
2010年	1716	78.5	8.6	12.4	5	31.5	-13.2	2.2	10.7	西	1308
2011年	1552	84.5	7.9	11.8	4.1	31.6	-13.3	2.4	11.9	西	1302
2012年	1239	105.5	7.7	11.8	4	31.4	-14.7	2.1	12.5	西南西	1404
2013年	1606	80	7.8	11.7	4.2	29.3	-13.8	2.2	11.3	西	1297

十和田観測所データ(気象庁)

年	降水量(mm)		気温(℃)					風向・風速(m/s)			日照
	合計	日最大	平均 日平均	最高 日最高	最低 日最低	最高	最低	平均 風速	最大風速 風速	風向	時間 (h)
2009年	1134	78.5	9.6	14.5	4.8	31.4	-14.9	2	12.8	西南西	1745
2010年	1323	50.5	10.2	14.9	5.7	35.6	-14.9	2.2	13	北北東	1718
2011年	1060	91.5	9.7	14.5	4.8	34	-16.6	2.3	12.6	西	1821
2012年	914.5	70.5	9.4	14	4.8	35	-15.3	2.3	14.8	西北西	1764
2013年	1053	130	9.4	14.2	4.7	34.3	-13.8	2.3	13.4	西	1690

焼山地区の問題点と課題

十和田湖温泉スキー場

スキー場の通年利用の実現

●ひまわりの試験植栽による来訪者の創出など、スキー場のグリーンシーズン(春夏秋)における活用が図られているものの、この地域に最も観光客が多く訪れる春夏秋において、また8ヶ月間という期間の長いグリーンシーズンにおいて、**更にスキー場の利用を促進することが必要**であり、一年を通して楽しめるスキー場づくりによって、**集客の実現、雇用の増加、地域の活性化**が求められている。

新たなアクティビティ(活動、体験)の創出

●地域の宿泊施設からは宿泊客が楽しめる**アクティビティが少ない**という声が多く、観光客が楽しめる**新たなアクティビティの創出**も地域の課題である。

スキー場中腹への交通手段整備

●グリーンシーズンには、安全法規上、既設のリフトが使用できず、**スキー場中腹に行く手段が自家用車のみしか存在しない**。バス等でスキー場を訪れた観光客は、中腹に行く手段がないため、自家用車でなくとも、**スキー場中腹に行ける交通手段を整備**し、グリーンシーズンにおけるスキー場利用を促進することが求められている。

十和田湖温泉郷

街の美観・景観整備

●多数の空き家、雪荷重により倒壊した廃屋、老朽化した街灯やサイン、老朽化が激しい側溝など、賑わいの再生やこの地区への誘客を実行しようとした場合、街としての**景観・美観に大きな問題**があり、**改善**が必要である。

地域のホスピタリティ(おもてなし)向上

●現在、十和田湖温泉郷の宿泊客の大多数が、奥入瀬渓流を目的とした観光客であり、飲食店や土産物店舗など商業の活性化とともに、地域のホスピタリティ向上の観点からも、**街としての魅力向上**が求められている。

交通アクセスの利便性向上

●温泉郷内にあるバス停は道路沿いで利用しにくく、雨天や降雪時でも、**安心してバスを待てる環境を整備**する必要があると同時に、**バスターミナル等の交通拠点を整備**することで、**交通アクセスの利便性向上**を図ることが求められている。

観光案内所の整備

●現在、観光案内所(奥入瀬インフォメーションhakocco)が試験的に設けられているが、**観光案内所の継続、増強**が求められている。

奥入瀬渓流館・湧水館

エコツーリズム活動・啓発拠点

●奥入瀬渓流を対象とした民間事業者等による営利事業が活発化している一方で、**各事業者が分散し活動**を行っており、**観光客に分かりにくい状況**がある。また、地域の魅力伝達、環境保全の啓発活動などを目的とした**施設がない**。これらを改善し、**観光客に分かりやすい活動・啓発拠点を整備**することが好ましい。

第二温泉郷

温泉源の有効活用

●現状の十和田湖温泉郷への配湯管が、将来的に改修が見込まれることから、第二温泉郷から十和田湖温泉郷への配湯・配管を検討する必要がある。
●十和田市による温泉掘削により、新たな温泉源が確認・確保されているものの、**利用していない状況**であり、この**温泉源の有効活用**を図り、地域の活性化に役立てることが求められている。

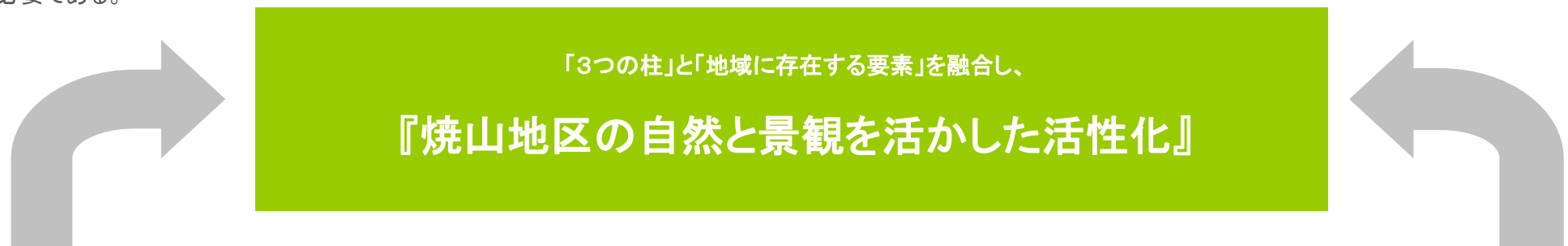
湯ノ台

地域との連携

●現状の湯ノ台では、牛の放牧、乗馬など、温泉郷などでは行えない広大な敷地を活用したさまざまな民間企業や団体等の事業が営まれていることから、地域の魅力向上を目的とし、**地域全体の連携**などが求められている。

テーマ

当該活性化計画として、様々な問題点・課題を解決するため、「花」と「温泉」と「アート」の3つの要素を柱に、地域へ魅力を持たせることに加え、観光客にとって『当該地域でしか体験できない』地域としての明確なメッセージを発信することが重要である。
 また、焼山地区は、八甲田・十和田湖・奥入瀬溪流の「千年のときが生み出した」希有の大自然を目的に国内外から多くの人々が訪れる通過点にある。この多くの人々に焼山地区に存在する自然や景観を体験してもらうアプローチが必要である。

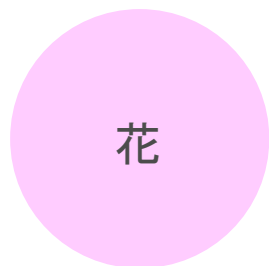


3つの柱



●八甲田・十和田湖・奥入瀬溪流という自然が隣接する地であり、宿泊客の大多数は、十和田湖・奥入瀬の自然を目的とする観光客。さらに多くの観光客に十和田湖温泉郷に滞在し、温泉を利用してもらうには地域イメージの統一をもって計画整備を行うことが重要であり、十和田湖・奥入瀬溪流の自然に対する印象と合致する方向で、温泉を最大限活用することが好ましい。

●地域資源である温泉を最大限活用するためには、宿泊・飲食・物販など、『街』としての魅力を高める必要がある。宿泊、飲食、物販などの観光客向けサービスの充実とともに、街の景観・美観整備を行わなければ、温泉を最大限活用できる環境にはならない。



●十和田湖温泉スキー場での植物や花の植栽は奥入瀬溪流の生態系に影響がないよう、専門家の意見を聞きながら検討する。

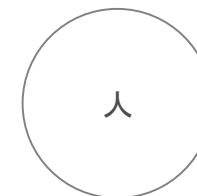
●街なかでの植物や花の植栽は、十和田湖温泉郷をはじめとする地域の人々を結びつけ、地域の絆を強化することが、過去の事例から確認されている。前述の景観緑化整備とともに温泉郷内で積極的に花などによる地域の絆を強化することも視野に入れたプログラムを実施し、地域の活性化に繋げる。



●八甲田・十和田湖・奥入瀬溪流という自然が隣接する地として、『自然』をテーマとしたアート作品・プログラムを展開する。これにより、自然を異なる視点から眺め、感じることのできる独自のアートをこの地域で展開し、話題性、誘客に繋げる。

●地域の人々と対話しながら、さまざまなアートを展開することで、アートが有する独自の視点、異なる物事の考え方などを地域の人々と共有し、独自性のある地域・市民活動、経済活動などを促進する。

地域に存在する要素



八甲田・十和田湖・奥入瀬溪流の交通の要衝という焼山地区の地の利を生かし、
独自性を持ったユニークな手法で、花とアートと温泉を活用し、地域の魅力向上を図る。



千年のときが生み出した自然と歩む、焼山地区独自の計画

地域資源の最大活用・地域の魅力向上
(十和田湖温泉スキー場)

- ➡ 施設整備・サービス充実・イベント実施などによる魅力向上(通年)
- ➡ 自然をテーマにしたアート整備・プログラム整備(春夏秋)
- ➡ 花を活用した景観整備

景観・街並み整備・地域の魅力向上
(十和田湖温泉郷)

- ➡ 観光案内・バスターミナル等の観光拠点の整備
- ➡ 緑化・花・サインなどによる景観整備
- ➡ 地域資源とアートを活用した経済活動・市民活動の促進

エコツーリズム促進
(奥入瀬溪流館・湧水館)

- ➡ エコツーリズム関連の活動拠点整備
- ➡ エコツーリズム啓発活動(展示等)整備

地域の魅力向上(第二温泉郷)

- ➡ 温泉資源の活用

地域の魅力向上(湯ノ台)

- ➡ 自然環境の活用

× アート(創造性)

アート(創造性)によって、この
地域独自の活動・
景観・表現を生み出す

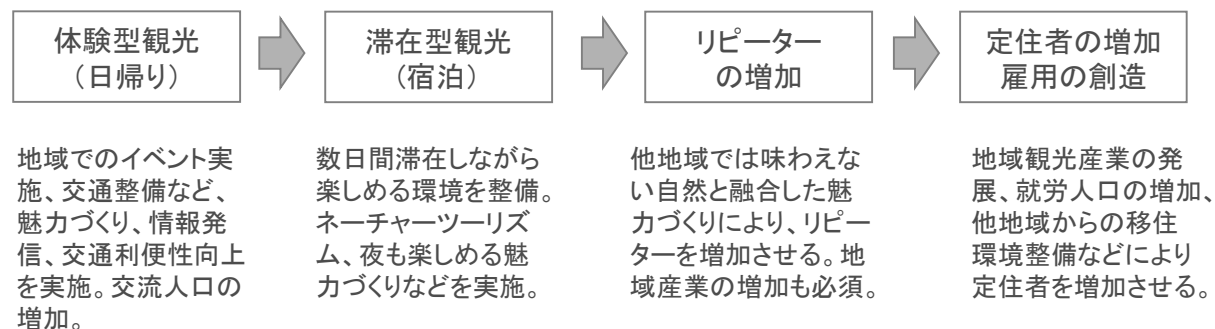
焼山地区
独自の計画

自然、地域資源を中心に、
八甲田・十和田湖・奥入瀬溪
流とのイメージ統一を図る。

基本方針① 発展する観光計画

地域経済を長期に渡り活性化させるためには、最終的に地域の定住者を増やし、雇用の創造が欠かせない。そこで下図のとおり、段階的に発展する長期的な視点での観光計画策定を目指す。

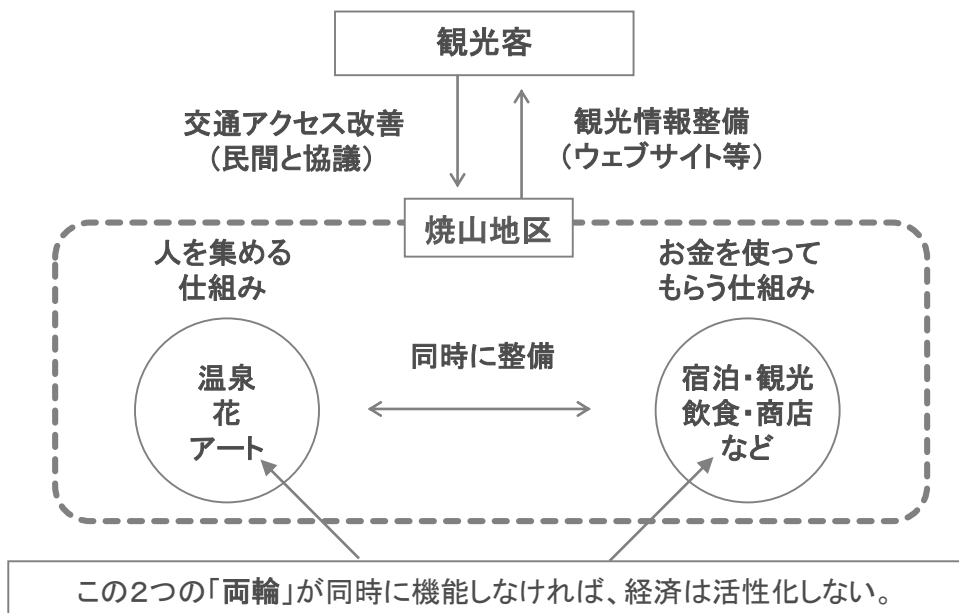
観光だけにとどまらず、最終的に定住者を増加させ、雇用に創造する。



基本方針② 集客と経済活性

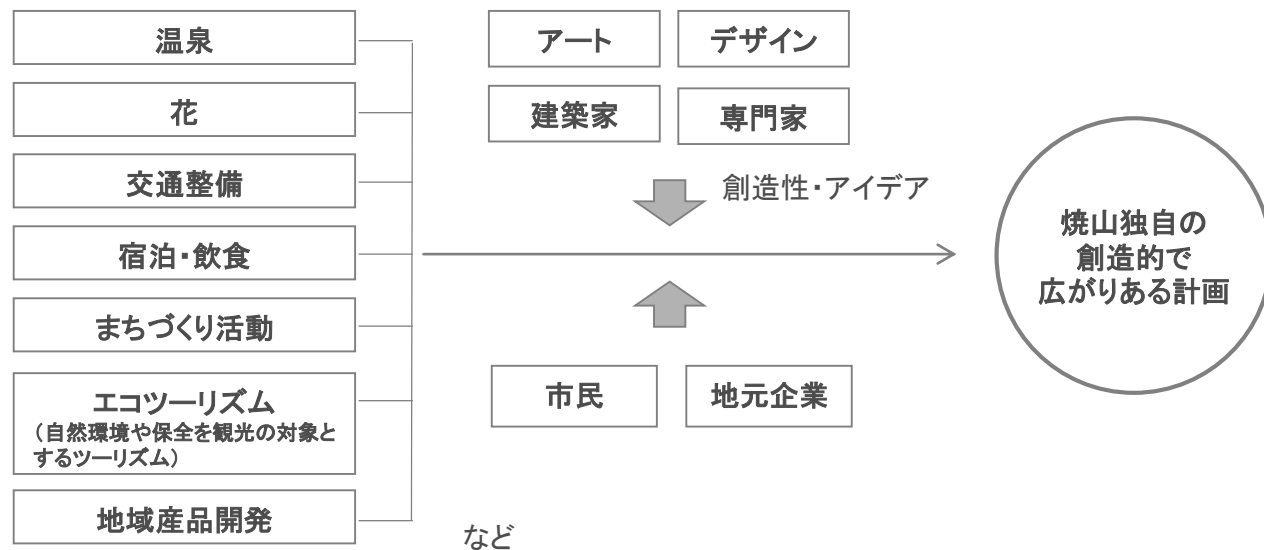
継続的な地域経済の活性化を実現するには、人を集める仕組みと、お金を使ってもらう仕組みの両方を、同時に整備する必要がある。今回の計画では、この両輪とともに、交通手段の整備、および観光客に徹底して観光情報を伝える手段(ウェブサイト等)なども同時に計画する。

集客だけでなく、観光客にお金をつかってもらう仕組みも同時に計画。



基本方針③ 創造的かつ広がりのある進め方で計画をつくる。

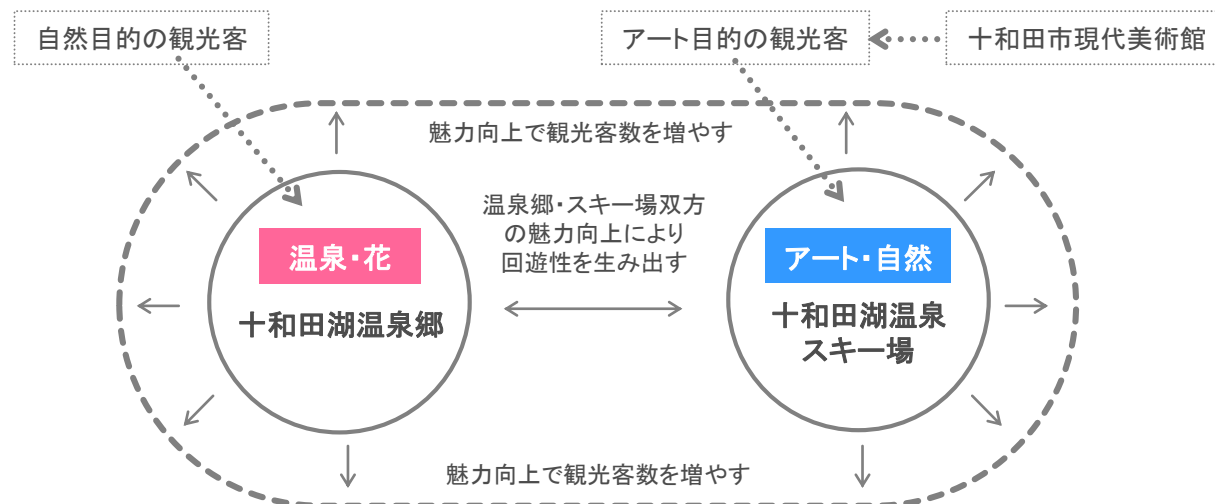
温泉・花などの分野にアート・デザイン等のクリエイティブな(創造性のある)思考、アイデアを掛け合わせると同時に、市民、地元企業などとも協力しながら、創造的かつ広がりある計画をつくる。



春・夏・秋の目標とする観光客の流れ

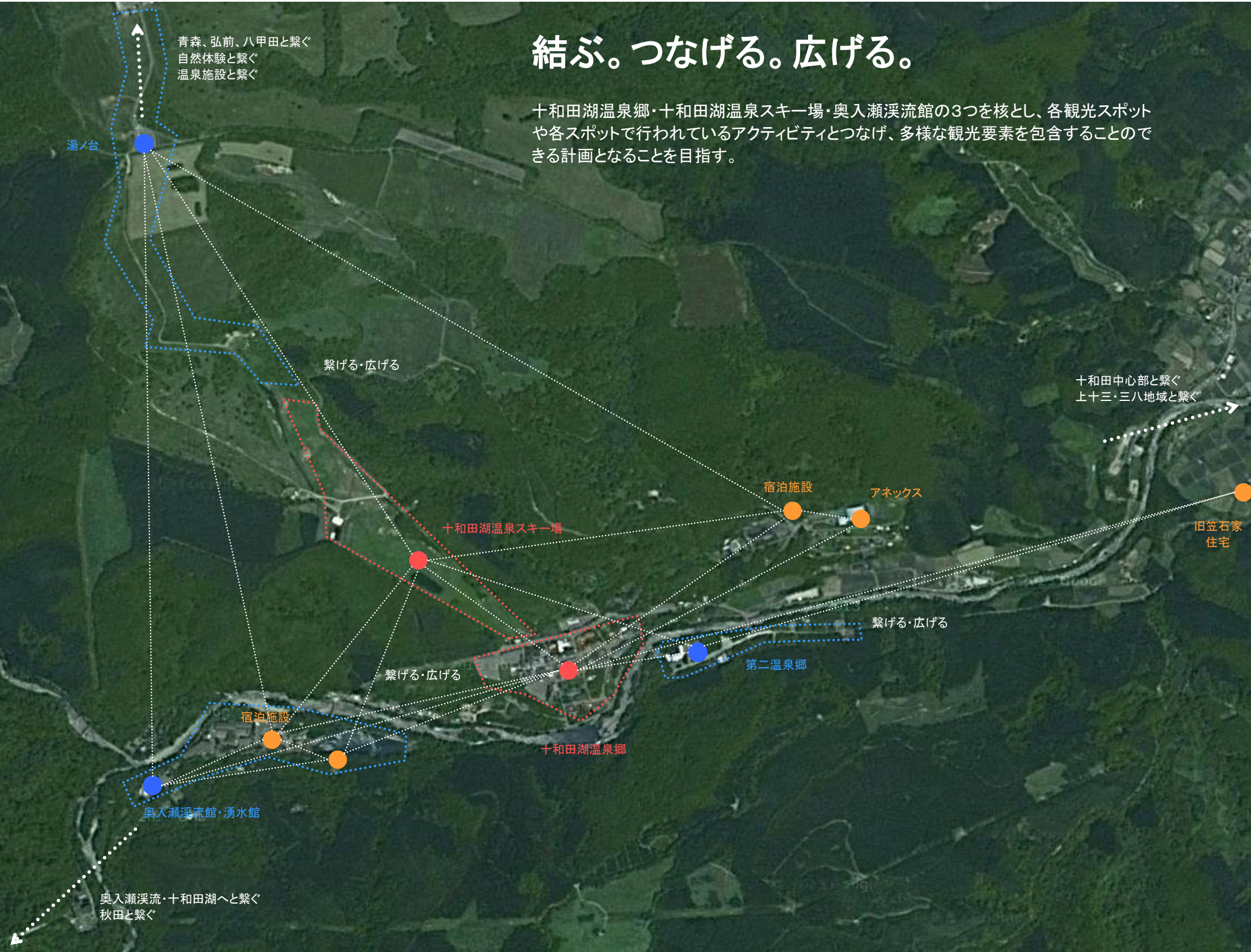
春夏秋において、スキー場を有効活用し、多くの観光客を集めるためには、隣接する十和田湖・奥入瀬溪流への圧倒的な数を誇る観光客を回遊させ、利用者数を増加させることに着目すべきである。このためには、自然目的で訪れた観光客をスキー場に惹きつける必要があり、奥入瀬溪流などでは経験できない内容でありながら、自然を感じることでできる内容で、スキー場を活用し、魅力の向上を図る必要がある。同時に、十和田市現代美術館を訪れるアート目的の観光客を惹きつける場合も同様で、美術館では味わえないアートを見れる、経験できる内容とする必要がある。この両立を図るには、自然とアートが融合したテーマで春夏秋のスキー場を活用することが好ましい。

地域全体の魅力向上を実現し、回遊性を創出する



結ぶ。つなげる。広げる。

十和田湖温泉郷・十和田湖温泉スキー場・奥入瀬渓流館の3つを核とし、各観光スポットや各スポットで行われているアクティビティとつなげ、多様な観光要素を包含することのできる計画となることを目指す。



計画地内機能案



整備概要

スキー場は冬期以外が遊休施設となっており、広大な面積を有している。さらに八甲田、十和田湖、奥入瀬渓流を望むこともできる。また十和田湖温泉郷は宿泊や飲食の機能を有し、地域活動のコアである。奥入瀬渓流館・湧水館は、より一層自然の魅力を伝えることができる可能性を有している。以上のことから、3つのエリアを核とする。

■ 核となる3つのエリア(観光客向け)

A 十和田湖温泉スキー場

スキー場通年利用の実現と魅力向上。

春夏秋を含むスキー場の通年利用を目的とし、スキー場の魅力を向上すべく、施設・サービス・プログラムの実施などの再整備を行い、既存の地域資源を最大限活用する。



- アート
- 花樹木
- アクティビティ
- 眺望散策
- 施設充実

B 十和田湖温泉郷

焼山地区観光のための拠点エリアとして。

奥入瀬渓流観光における拠点エリアとして、景観・街並み整備、地域全体の魅力向上、バスターミナルなど交通拠点の整備を行う。

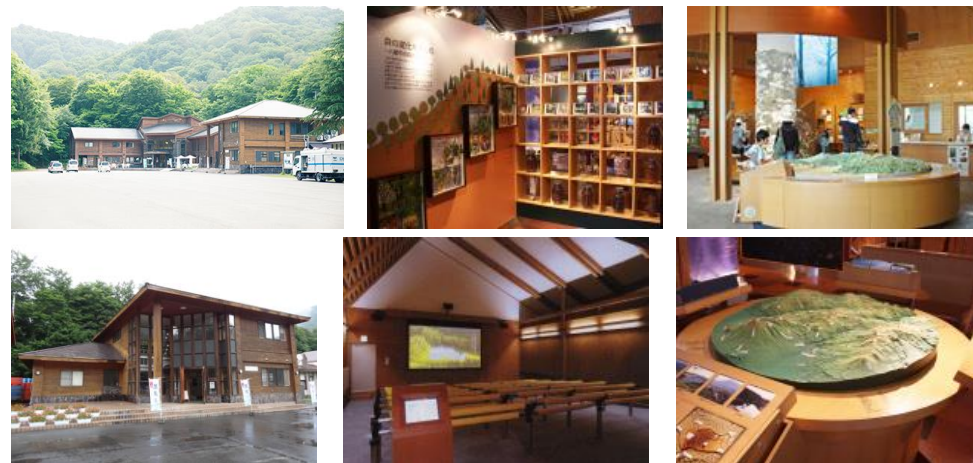


- 花樹木
- 温泉
- 美観
- 観光案内
- 交通拠点

C 奥入瀬渓流館・湧水館

エコツーリズム、環境保全活動の拠点。

奥入瀬渓流におけるエコツーリズムの拠点として活用し、奥入瀬渓流観光の拠点とする。



- 奥入瀬渓流
- エコツーリズム
- 活動拠点
- 環境保全
- 啓発展示



■ 民間事業の促進・連携を行う2つのエリア

D 第二温泉郷

温泉を活用した新たな産業の創出等。

温泉源の整備、温泉郷への配湯の検討。温泉源を活用し、野菜、果物等の栽培など、地域における新たな産業の創出を目指す。



E 湯ノ台

新たなアクティビティ。

民間事業者が行う取り組みに対し、連携を図る。



スキー場 グリーンシーズン(春夏秋) 整備案

一般車侵入可能

展望ステージ
頂上に八甲田、焼山地区をのぞむことができる
芸術性の高い展望ステージを整備する。



恒久設置作品(ゲレンデAゾーン、ゲレンデBゾーンなど)



季節展示作品 * 移動可能コレクション
(ゲレンデAゾーン(エントランスハウス周辺)、中腹など)



花xアート
(パークゴルフ場脇など)



(仮称)焼山美術館
作品展示、企画展示室、ワークショップ、
体験スタジオなど新しい機能を付与。



花の植栽



輸送手段検討箇所

スキー場 エントランスハウス
施設・サービスの魅力向上のための機能。



スキー場 エントランスハウス

スキー場の魅力向上を図るためには、施設・サービスの向上が重要な要素となる。現状の機能を有したまま、春夏秋のスキー場通年利用を目的とし、スキー場拠点施設の充実を図る。

スキー場エントランスハウス 必要機能(案)

- 管理事務室
- チケット売り場
- 休憩・イベントスペース・足湯
- アート長期展示スペース(室内)
- カフェ、売店
- スキーレンタル・スクール(冬期)
- 自転車レンタル(春夏秋)
- キッズプレイルーム
- トイレ等付帯設備
- 倉庫・バックヤード

事例ー施設イメージ

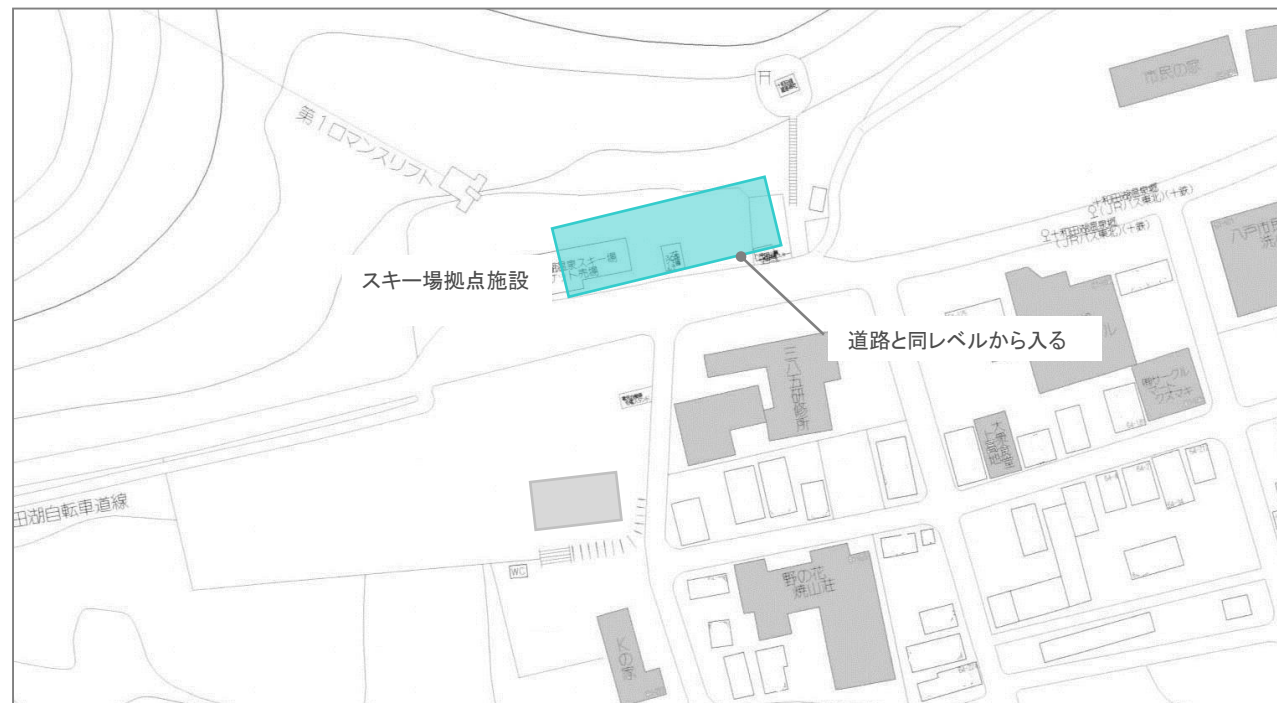


緑ミュージアム&カフェ 設計:中村拓志&NAP



中之条町交流センター「つむじ」の足湯

スキー場エントランスハウス 配置案



展望ステージ

スキー場頂上に八甲田、焼山地区をのぞむことができる「芸術性の高い展望ステージ」を整備する。展望ステージではさまざまなプログラムやイベント等が行えるものとする。

海外 山岳地帯での展望デッキ事例



(仮称)焼山美術館

スキー場の冬季以外の魅力向上を図るため、既存のコミュニティセンターという機能は残しつつ、作品展示、企画展示室、ワークショップ、体験スタジオなどの新しい機能を付与し、より魅力的な施設へと整備する。



コミュニティセンターと十和田湖温泉スキー場

グリーンシーズン(春夏秋)に展開するアート作品の例

屋外恒久設置 展開場所:ゲレンデAゾーン、ゲレンデBゾーンなど

「雨、風、光、影、雷、音、霧、大気など、形のない自然現象と戯れる」をテーマにスキー場ゲレンデの障害とならない自然現象等をテーマとした作品などを恒久展示作品として設置。



霧を活用 作家:中谷美二子

稲妻を活用 作家:Walter De Maria

音を活用 作家:Cardiff & Miller

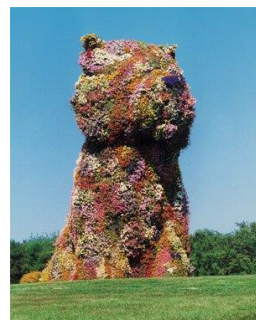
季節屋外展示作品 展開場所:ゲレンデAゾーン(エントランスハウス周辺)、中腹など

移動可能な作品を初期コストにて購入。春夏秋のグリーンシーズンのみ屋外で展示。



花を用いた作品 展開場所:ゲレンデBゾーン(パークゴルフ場脇)など

花を活用した作品。

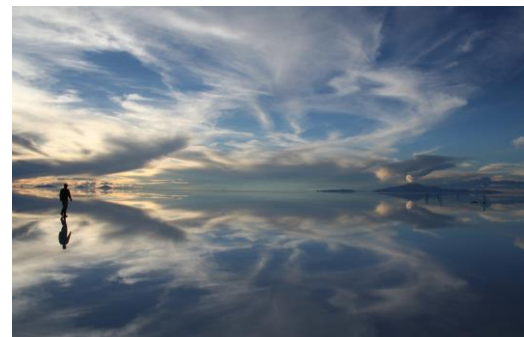


室内展示作品 展開場所:エントランスハウス、展望ステージなど

長期、室内展示作品。初期コストにて購入し、コレクションとして保有。



作家:STEINER & LENZLINGER



作家:Tomas Saraceno

作家:Hans op de Beeck

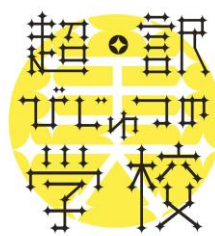
室内恒久設置 展開場所:エントランスハウスなど

室内恒久設置作品。



グリーンシーズン(春夏秋) アクティビティ・体験工房など(コミュニティセンターなど)

アクティビティ、ワークショップ、体験スタジオ、パフォーマンス、音楽、夜間プログラムなどは年間運営費で実施。



超訳じゅつの学校



地球と遊ぶプロジェクト「森を食す・森を話す」 作家:木村崇人



花の植栽

これまで試験的に実施してきた花の植栽について、引き続きゲレンデに植栽及び管理を行い、地域景観の向上、魅力作りを目的に実施する。



芝桜のイメージ

青森十和田湖自転車道線 再整備(県道)

木々が生い茂り使用しにくい状態となっている、既存の青森十和田湖自転車道線を利用しやすいよう再整備する。ただし、この自転車道は県道であるため、青森県との協議が必要である。

整備内容

- 自転車道上の枝などの除去、自転車道として使用できる環境を再整備。
- 案内等が殆どなく観光客が気がつかないと思われるため、計画地内のサイン整備とあわせ、自転車道の周知、コース案内、方向・ルート等のサイン整備なども行う。
- 自転車を持参していない観光客も気軽に利用できるようスキー場拠点にレンタルサイクル拠点の設置を検討する。



温泉郷付近で数少ない自転車道の案内板

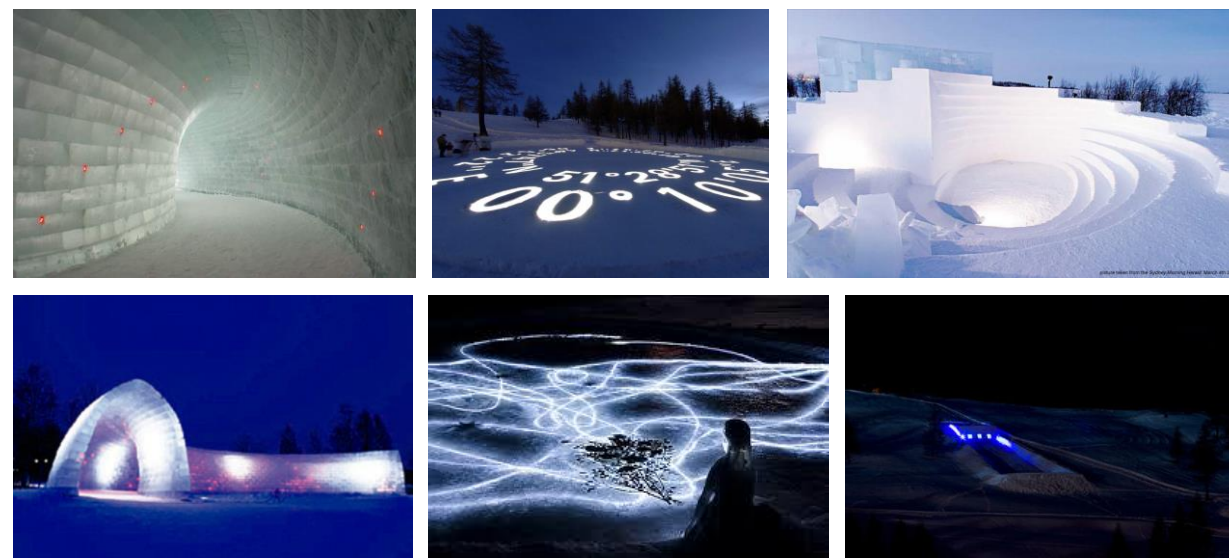


自転車道ルート

冬期のアート(参考)

冬期、雪などを利用したスキー場の魅力向上、幅広い客層をターゲットとした誘客プログラムも検討する。

雪を使ったアート・建築・教育プロジェクトの事例:The Snow Show(フィンランド)



B 十和田湖温泉郷

奥入瀬焼山観光のための拠点エリアとして。

奥入瀬溪流は国立公園に指定されているため周辺には新たに造成できる土地が存在せず、十和田湖温泉郷が、焼山地区の観光における滞在・宿泊・商業など拠点エリアとなる。温泉郷の魅力向上なくして、奥入瀬溪流への観光客増加は見込めない。十和田湖温泉郷を、当該地区の観光の拠点として、魅力あるエリアとなるよう整備する。なお、青楓山バイパスの完成、奥入瀬溪流におけるユネスコ・エコパーク登録の可能性なども視野にいれる。

十和田湖温泉郷 の魅力向上の目的・条件

- 温泉郷の景観・街並みを整備し、奥入瀬溪流の自然に相応しい美観を整備する。
- 市民活動・地域活動が促進されるよう環境、仕組みを整える。
- 交通、アクセスの利便性を向上させるため整備を行い、民間事業者に働きかけを行う。
- 観光客に対し、奥入瀬溪流の自然と関連しながら、新たな魅力的な観光要素を提供する。
- 自然、地域資源をテーマとし、奥入瀬溪流とのイメージ統一を考慮する。

十和田湖温泉郷 整備内容(案)



観光案内所・バスターミナル整備

地域の魅力の伝達、温泉郷の経済活性の促進、交通拠点の整備を目的に、現在のスキー場駐車場に観光案内所およびバスターミナルを整備する。また、地域産品を販売する店舗スペース(テナント)を併設することも検討する。なお、十和田湖温泉スキー場のエントランスハウスとの機能や効率性を一体的に考え、当該施設の整備の可否を検討する。

施設 必要機能(案)

- 観光案内スペース・バス待合所
- 地域産品販売スペース
- トイレ等付帯設備
- 倉庫・バックヤード
- 廊下等
- バスターミナル(外構)

施設イメージ

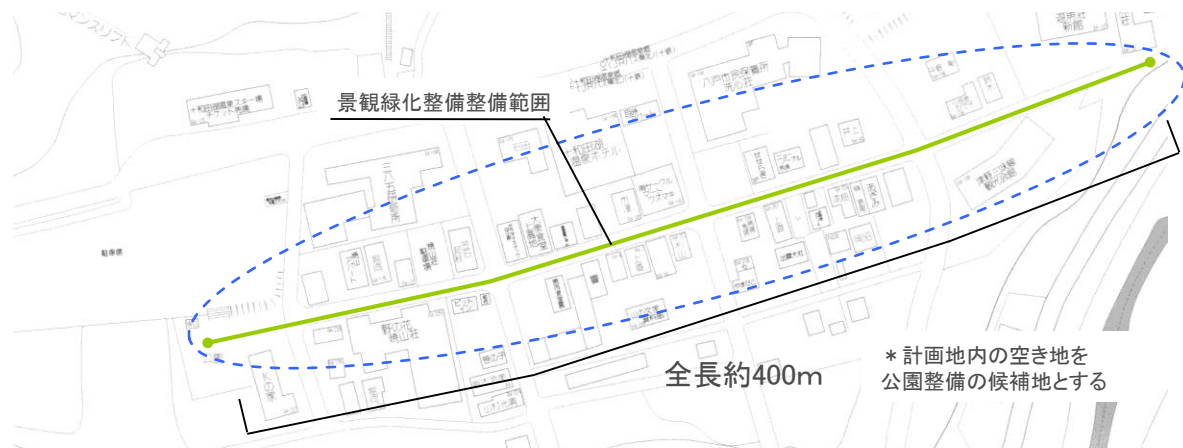


述床面積100㎡の小さな美術館兼カフェ 緑ミュージアム&カフェ(栃木県) 建築家:中村拓志&NAP

樹木・花などによる景観緑化整備(主にメインストリート)

温泉郷内の景観整備が本計画の重要課題である一方で、温泉郷内に建つ民間所有の建物などへの行政による整備は難しい。しかしながら、道路・公園などをはじめとする公共空間の整備は可能であり、温泉郷のメインストリートを中心に、樹木、花などによる景観緑化整備を行う。道路だけでなく、遊休地、空き地など民有地を一定期間賃借し、公園等に整備できる場合は、あわせて実施する。

整備範囲



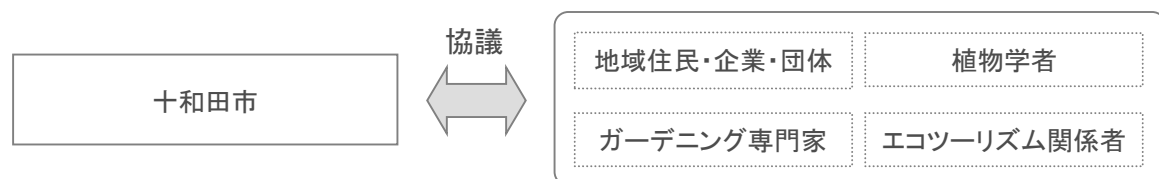
事例紹介



事例：スイス、ツェルマットの街なかの植栽

進め方

樹木・花などによる景観緑化整備は、以下の通り、地域住民、植物学者、ガーデニング専門家、エコツーリズム関係者などを交え、奥入瀬溪流の生態系への影響がないか、地域ブランドの統一などを意識しながら、協議し、整備内容を決定、実施するものとする。



湯けむり側溝整備

湯けむりにより温泉郷の魅力づくりを目的に、湯けむり側溝の整備や、側溝に温泉を流し、融雪の一助とするかどうかについて、費用対効果、周辺環境への影響などを検証し、実施の可否を検討する。

整備範囲



鉄輪温泉(別府市)の湯けむり通り

街灯整備

景観向上のため温泉郷内の街灯の整備を検討する。



老朽化した街灯(現状)



夜間の様子(現状)

長期滞在・活動・制作。地域の可能性を発掘、発展。

アーティストやクリエイター等が自主的に地域におけるまちづくり活動、創作活動に参加できるよう、長期滞在大きく制作場所が確保できる仕組みを整備することで、これらの活動を促進する。温泉郷の遊休地や空き家を活用し、アーティスト、クリエイターだけでなく、食、自然、環境、科学など各分野の専門家が利用できる施設とすることで、この地域が有する潜在的な可能性を発掘、発展させるための活動に寄与する施設となることを目指す。
また、地域住民や組織によるまちづくり活動、地域の活性化活動にも利用できる施設とすることも検討する。



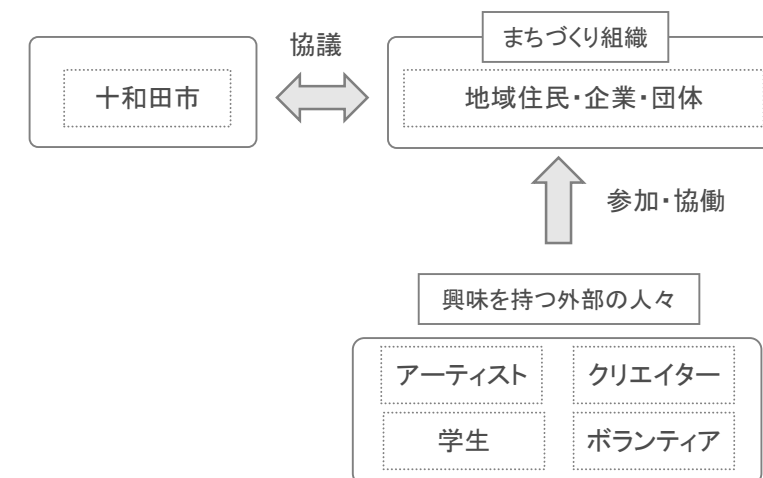
※写真は参考イメージ

景観整備・出店促進・地域の魅力伝達

十和田湖温泉郷が、かつてのような賑わいを取り戻し、地域を真に活性化させるためには、それを阻害するさまざまな要素を取り除き、活性化のために必要な環境、仕組みを整備する必要がある。民間所有の土地・建物には、行政による整備は難しい。地域住民や企業とともに、これらを着実に解決に向けて実行に移し、景観整備・まちづくり・地域の活性化を実現させることが好ましい。

まちづくり組織の形成の例

まちづくり活動、活性化活動を促進するため、地元住民・企業などを中心とするまちづくり組織を形成していくことが好ましい。一方で、域内の人口は非常に少ないことから、地域の再生に興味を持つアーティスト、クリエイター、学生、民間企業など、外部の人々を積極的に取り込み、共にまちづくり活動を行うことが、より着実な実現へと結びつくものとする。



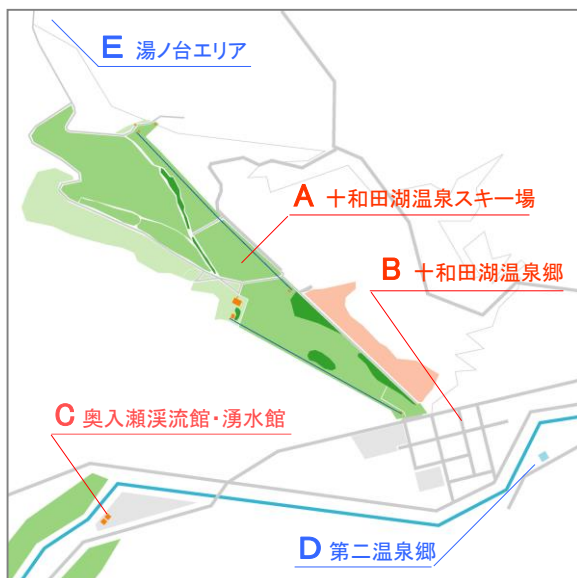
想定されるまちづくり組織の活動例

- 街並み・景観整備： まちづくり組織による統一した街並み・景観整備により、賑わい再生につなげる。
- 出店促進： 温泉郷内での起業・出店を促し、地域経済の活性化を促す。
- 地域の魅力伝達・提供： 地域の様々な情報・魅力を提供し、地域経済の活性化を促す。

C 奥入瀬溪流館・湧水館

エコツーリズム・環境保全・環境啓発活動の拠点

エコツーリズム促進のため、奥入瀬溪流館・湧水館を、団体・企業等の活動拠点、環境啓発展示等を備えた施設へとリニューアルする。豊かな自然環境を有する日本国内の地域の殆どが、地域の自然をより詳しく紹介する施設を備えているが、奥入瀬溪流においてはそのような施設が存在しない。観光客に対して包括的な情報、活動を伝えることのできる拠点として、溪流館・湧水館を整備する。



D 第二温泉郷

温泉を活用した新たな産業の創出

温泉源の整備、温泉郷への配湯の検討を行う。温泉源を活用し、野菜、果物等の栽培など、地域における新たな産業の創出を目指す。



第二温泉郷の様子

E 湯ノ台

新たなアクティビティ

現状の湯ノ台では、牛の放牧、乗馬など、温泉郷などでは行えない広大な敷地を活用したさまざまな民間企業や団体等の事業が営まれている。それをふまえて案内板などをはじめとするサイン整備、十和田湖温泉郷エリアでの湯ノ台におけるアクティビティの紹介など積極的に連携を図るものとする。



牛放牧



乗馬

計画地域全域

ウェブサイト整備

観光客向けに地域の観光・交通情報などを伝えるウェブサイトを構築する。観光スポット、飲食店、宿泊施設、地域産品、イベント、アート情報など、地域に存在する面白い「場所」、「こと」、「もの」を積極的に紹介する。PC版ウェブサイトに加え、スマホ版ウェブサイトも同時に整備。フェイスブック、ツイッターなどSNSとも連動する仕組みのウェブサイトを構築する。また、不動産物件紹介、支援制度紹介などを掲載した出店・起業・定住促進向けコンテンツ、地域関係者のコミュニケーション促進、情報共有を目的としたコンテンツも作成する。



情報誌

ウェブサイトに加え、地域の観光スポット、飲食店、宿泊施設、温泉などを紹介するフリーペーパー（観光案内リーフレット）等も作成し、観光客に無償で配布する。



交通アクセス改善

地域を活性化させるためには、焼山地区への交通アクセス改善が必須である。バスの運行本数増便、鉄道との接続時刻改善など、観光客の視点で、より使いやすく、よりアクセスしやすい交通環境を検討する。



サイン整備

公共サイン、看板、ゲートなどを地域全域で整備し、運転者、歩行者の両方が移動しながら、地域にあるものを知ることができ、回遊できるよう工夫する。



事例：豊洲二丁目地区サイン整備